



一事が  
万事

川崎ゆきお

「一事が万事」

「一字が万の字なのですか」

「一字が万字。うん、それもいい」

「何かありましたか、一事が万事のようなことが」

「あるネット上の投稿サイトがあるんだ」

「遙か上空にあるようで、よく分かりませんが」

「そこに画像を文中に挿入するとき、いつも二回か三回はやり直さないといけないんだ」

「はい」

「タイトルを入れる。そして本文を入れる。そのタイトルの下、本文との間に画像を入れています。ところが、その場所を指定して画像を入れても、いつも本文の真下に来る。画像はですねえ、これは送るわけですから、その時間がかかるし、貼り付けるまでの時間がかかる。数秒ですがね。しかし、待たないといけな い。一回なら良い。二回、三回となると、このネット上のサービスは、この一事が万事ではないかと悪い印象を受ける」

「それはプログラムか何かのミスでしょ」

「そうそう、ミスと言うほどではないが、バグのようなものでしょ。それがなかなか直っていない。ずっとその状態なんだな。だから、直す気がないのか、直し たくても方法が分からないのか、人出がないのか、または、これは業者に任せているか、または弄れないかだ」

「画像は出るのでしょ」

「出る。レイアウトも崩れていない。だから、実用上問題はない。それに、これは無料だしね。ただ、ストレスなんだなあ。これが」

「あ、はい」

「毎朝、それをアップしている」

「ブログのようなものですね」

「そうそう。しかし、書いた物を売ることもできるんだ」

「じゃ、頑張り甲斐がありますねえ」

「私は売らないよ。ただの日記なんだから」

「あ、はい」

「それで、毎朝、アップしているんだけど、その画像の挿入、一発で上手く行く日もあるんだ。しかし、次の日、きっちりと同じ動作で行っても、下に出てしまう。そこに無駄なスペースが空いているからと思い、それを削除してもだめだ。それでね」

「ちょっと専門的な話ですねえ」

「いや、専門も何もないよ。一般の人が普通に使っているんだからね」

「はい」

「この画像が上手く挿入できないことに関して、他の人が語っていたので、それを参考にした。カーソルの場所とかね、それに関係するとか。しかし、何をしても、結果は曖昧で、上手く行くときとそうでないときがばらばらに来る。そこで、もう諦めたよ。何をしても上手く行かないのに、行く日は行くんだ。それに画像を挿入できないわけじゃない。何度かやり直せばいいだけ」

の話だし。だから、困ることはないが、ストレスでねえ。他のブログなんかじゃ、そんなことは起こらないよ」

「どんな」

「今日は一発でいけるか、同じことをまた繰り返して二発でできるか、三発でできるか、それを連日やってごらん、イライラしてくるよ。親切な人が解決方法を教えてくれも、その通りに成らんのだからね。意のままに操れない。この一事が悪印象でねえ。このサービスそのものの印象を悪くする。他の事でも、こういうことになってるんじゃないかと。さらにこれを提供している団体、会社何かよく分からんが、その会社の体質まで、この一事と同じ体質じゃないかと……ね」

「それが一事が万事なのですか」

「一つ悪いと、全部悪いんじゃないかと勘ぐってしまう。そして、この団体がやることを良いようには見なくなる。おそ松くんなどころではないかと」

「それはイヤミですねえ」

「これはねえ、私は洒落を言うから万事そういう人間だと思われて、信用を落としたことがある。だから言ってるんだ。今も言いたいよ。とどのつまりはとど松ってね」

「駄洒落ですね」

「まあ、それはいい。その画像挿入のバグか何か知らないが、それを放置したままだと、ここはだめだよ。何か問い合わせても放置するようなどころじゃないかとね」

「それは言いすぎでしょ」

「プログラムミスだとすれば、直せば良い。しかし、業者に任せているんなら、お金が必要だ。業者も作った人じゃなければ分からないだろう。そういうシステムをレンタルしているだけかもしれないしね。しかも本当に作ったのは海外の人だったりする。それをカスタマイズしただけ。この修正になると、面倒だろう」

「詳しいですねえ」

「こんなこと、誰でも知ってるさ」

「そのことを、日記に書かれては」

「書いてもいいが、読んでいる人は興味がないだろう。それに細かい話だし、重箱の隅を突くようなものなので、これもまた一事が万事になる。そう言うことばかり言っている人、狭い人だと思われてしまう。小さいことにこだわり、細かいことをぐつぐつ言う人だとね。だから、日記には書かない」

「日記なんでしょ」

「そうだよ」

「仕事じゃなく」

「まあ、そうだけど、仕事よりも熱心に書いているよ」

「それも」

「え、何が」

「一事が万事になりますよ」

「え、どこが」

「仕事より、プライベートなことに熱心な人だと」

「普通にいるだろ。そういう人は」

「しかし、目立ちすぎるとマイナスですよ。仕事より、趣味の方がいいってなると、仕事仲間の人は寂しがりますよ」

「え、見当が付かない説だねえ。よく分からん。理解できん」

「あ、私も」

「え、何」

「一事が万事になってませんか」

「いや、私の場合、いい面では一事が万事とは言わない。ちょっとしたことが気になったとき、この言葉を使う程度だよ」

「でも色々と事情があって、直さないんじゃないですか。直したいのに」

「そうだね、聞いてみないと分からない。しかし」

「はい」

「毎朝、それでイライラする。画像挿入程度で」

「インターネットって、そんなものでしょ。だから、私はしてません。それこそ一事が万事で、ストレスの集まりですよ」

「あ、そう。じゃ、画像挿入もないわけだ」

「そうです。そんな細かい話は発生しません」

「あ、なるほど」

「パソコンはあるのですが、未だにネットに繋がなくて」

「え」

「だから、イライラして、放置してます」

「ほう」

「ネット接続の一事で終わりました」

「む」

了